

固定資産・リース資産管理システム

SuperStream-FA+

企業が保持する固定資産の取得から移動・処分までを管理すると同時に、リース資産の契約から契約満了・再リース・中途解約までを管理します。リース会計基準の改正に伴う所有権移転外ファイナンス・リースの売買処理に対応し、固定資産情報はCOREへ、リース資産情報はCOREまたはAP+へインタフェースします。

FA+ システムフロー(固定資産管理)



特徴(固定資産管理)

あらゆる種類の固定資産の現物管理が可能です。また、減価償却費仕訳(配賦仕訳含む)だけでなく、固定資産で発生する仕訳(取得・移動・除却・売却・用途変更)をCOREへインタフェースします。さらに、ユーザーが指定した抽出条件をもとに帳票出力ができます。

機能(固定資産管理)

各種減価償却方法

日本で通常認められている減価償却方法に、対応することができます。

- ・定額法 ・定率法 ・均等法 ・少額資産の一括償却
- ・リース期間定額法 ・期中取得資産の償却:月割法
- ・税法特有の償却:特別償却/増加償却
- ・圧縮記帳 ・償却計算タイミング:月次/四半期/半年/年次

平成19年度の税制改正で追加された新しい「定額法」および「定率法」に標準対応しています。

各種固定資産

あらゆる種類の固定資産を管理することができます。

- ・有形固定資産(建物・機械装置等) ・無形固定資産(借地権等)
- ・繰延資産(試験研究費等) ・非償却資産(土地・書画等) ・償却済資産
- ・リース資産(売買処理資産)

固定資産の現物管理

種類、構造/用途、細目、購入先、設置場所、処分先、申告先の他に、8つの機能コードを自由に組み合わせることにより、多種多様な固定資産情報が現物管理できます。また、この機能コードをレポート出力時のソートや集計のキーとすることもできます。

税務申告書の自動作成

法人税の別表16および地方税用の償却資産申告書(第二十六号様式)が出力でき、作業の合理化が図れます。

資産データのキー管理

固定資産に関するデータ処理(取得、移動、処分、減損損失、減価償却計算)は、会社、管理単位および資産番号、枝番のキーで管理できます。

減価償却予測

マスタファイルに影響を与えずに、12か月分から最大12年分の減価償却費を会計だけでなく税務についても予測することが可能です。予測データ(取得予定・処分予定)はバッチ処理にて取込を行うことで効率的な処理が可能となります。また、予測した結果についてはCSVファイルでの出力ができるため、設備投資の中長期的な計画を容易にします。

明瞭な履歴管理

取得・移動・除却・売却・減損損失等の履歴を自動生成します。取得から現在に至るまでの異動履歴管理を行うことができます。

標準レポート

あらかじめ、豊富な標準レポートを用意。各種出力条件の指定を行うだけで出力することができます。(例:固定資産台帳、減価償却明細表、取得資産一覧表、移動資産一覧表、処分資産一覧表)

一括異動処理

大量データを一括に異動処理することができます。これにより、大幅な組織変更などが発生した場合の資産の異動処理時に、入力作業の軽減につながります。

- ・資産の一括移動 ・資産の一括処分 ・資産の一括変更
- ・一括遊休休止 ・一括増加償却率修正

償却費配賦

資産の償却費を、あらかじめ登録されている配賦率に従い各部門へ配賦することができます。さらに、COREへインタフェースすることで部門ごとの損益の管理に、一層の効率化が図れます。

減損会計対応

固定資産に係る減損会計処理機能を標準提供しています。SuperStream-FA+を使用することにより、減損会計処理における資産のグルーピングから減損の認識・測定、減損仕訳作成という煩雑な一連の業務をトータルに処理・管理することが可能となります。

資産のグルーピング

減損処理に不可欠な資産のグルーピング情報を登録・管理します。さまざまなグループを設定し、グループ内で資産を階層化して管理することができるので、企業の多様な固定資産利用形態に対応することが可能です。固定資産とリース資産(売買処理資産)とのグルーピングが可能です。

減損の認識

個別資産単位や資産グループ単位で管理されている割引前将来キャッシュ・フローデータより自動的に減損の認識を行います。

減損の認識に必要な割引前将来キャッシュ・フロー情報は、画面からの入力だけでなくCSVファイルの取込処理により登録することも可能です。

減損の測定

減損の認識が行われると、帳簿価額と回収可能価額より自動的に減損損失額を測定します。回収可能価額は個別資産単位や資産グループ単位で管理しており、その情報は画面上からの入力だけでなく外部データの取込処理により登録することも可能です。

減損会計処理、減損後の会計処理

減損測定の結果算出された減損損失額より自動的に仕訳を生成します。仕訳データは基幹システムであるCOREへインタフェースされますので、減損認識・減損測定・会計処理という業務をスムーズに実行することができます。減損処理を行った固定資産は、それ以降、減損損失分を考慮した減価償却処理を実行します。減損処理はトップダウン方式/ボトムアップ方式の両方に対応しています。

減損損失シミュレーション機能

減損会計での一般的な処理単位である資産グループを「減損認識判定パターン」として複数パターン登録することが可能です。SuperStream-FA+では「減損認識判定パターン」ごとに減損の認識・測定処理を実行できるので、さまざまなパターンを想定した減損シミュレーションを行うことができます。

資本的支出

資本的支出資産を管理することが可能です。

資産の合算

資本的支出資産は本体資産と合算して管理するか、合算しないで管理するかを選択することが可能です。資産の資本的支出の合算処理対象として登録された資産は、登録初年度は本体資産と個別に資産管理および償却計算が行われます。登録以降、初回の年次更新処理にて本体資産に合算され、翌会計期からは本体資産として資産管理および償却計算が行われます。

償却資産申告書

償却資産税申告書では資本的支出資産が合算された以降も、資本的支出部分と本体は別明細での出力が原則必要とされています。そのため償却資産税申告書の「種類別明細書」では、合算前の資産状態にて出力されます。

